

たけうち牧場

調査団体名	： (株)たけうち牧場	団体代表者名	： 竹内通王
設立年	： 1971(昭和46)年	対応してくれた人の名前	： 竹内通王
団体URL	： http://teleco.jp/takeuchi/		
活動拠点	： 愛知県北設楽郡設楽町西納庫字駒ヶ原	調査員	： 浅田益章、松井賢子、沖 章枝
取材日	： 2014年11月15日	レポート作成者	： 沖 章枝

活動内容

牧場経営：

父母が戦後入植開拓した標高900mの段戸山麓で、独自で肉牛の肥育を手がける。酒造会社勤務をした後入学した八ヶ岳農業実践大学卒業後の23歳から始める。当初、農業後継者育成資金75万円を借り、生後1週間ぐらいの赤ちゃん乳牛にミルクを飲ませ育て、6ヶ月齢の素牛として売り回転させた。11頭の牛から開始。この時、牛舎は古材を買って手造り。以後スクラップ&ビルトを繰り返す。0.1歩でも前進したいと思ってきた。牛が500頭になれば人も雇えるようになると考え目標にした。

これまでにオイルショック、BSE、カイワレ騒動に翻弄されたこともあった。現在、牧場で450から500余頭を肥育。農業制度資金の融資を受ける時は、設楽町に保証人になってもらえる親戚もないため、友人とお互いの保証人になり合ったりを繰り返してきた。理解を得るため“ビーフ祭り”を催したことも。自己資本比率を高めようと努め、10年程前に100%達成。息子が後継者として戻ったので、今は新事業融資を受けている。

2014年8月、農業者としての究極の願いであったここで育った牛を、この空気の中で地元の新鮮な野菜と一緒に味わってもらおうという、『農園レストラン&BBQばんじゃーる駒ヶ原』をオープンさせた。従事者5人、パートさん3人。

地域活動：

○広い設楽町に若い農業者はそんなに多くなく、線や面で繋がる必要があると思い、同世代の者で、『設楽町農業青年会』を設立。丁度、四国の池田高校が甲子園に出場し優勝した頃で、「やる気になったら何かできるんじゃないか」と考えた。全国農業会議所主催の『若い農業者グループ活動コンテスト』に応募し、農林大臣賞を獲得(全国表彰)。

○『ばんじゃーる 自然塾 駒ヶ原』を開催 ※ばんじゃーる は、インドネシアバリ島地方の最少社会生活単位を表わす言葉。日本の『結』『講』にあたる。

○『山を拓き ここに暮らしを創る—愛知県段戸山麓戦後開拓集落 駒ヶ原・沖ノ平の聞き書き—』を2013年3月に発行。沖駒区開拓聞き書き実行委員会を立ち上げ実施。編集 山里文化研究所。

○沖・駒プロジェクト・・・旧駒ヶ原分校の校庭で、地域の人や自然が好きという若い賛同者で4月から11月第3日曜日にログハウスづくり。2013年に1棟完成、2棟目を建設中。丸太小屋造りの体験を通して交流事業をしている。

○R153からR257をつなぐ広域農道が建設中だが、ナナカマドとモミジを農道沿線に植栽し、ナナカマド街道を計画している。まだ名倉まで繋がっていないが名倉から津具へ。津具には先輩たちが植えたササグレモミジの街道があるのでそこへ繋ぐ予定。

○名倉で今春(2015年)から始める、中日新聞・中日文化センターと共催の『名倉でおいしいお米をつくろう』の講座を引き受けた。都市の人に、体験を通して農山村の楽しみ方や、地元住民との交流を図る事業を行う予定。(名倉地区営農推進協議会)

キャッチフレーズ：

希望は外でなくここにある

会のモットー(何を大切にしているか)：

親たちが苦勞をして拓いてくれたからこの地がある。このことを忘れないでいたい。
ここで暮らし続けたい人やここへ入ってきたい人達と交流して、次世代の人が住んでくれる環境を創りたい。

設立から現在に至るまで変化したこと:

場所を嘆いてはなにもできない、ここは山の中だけれど日本列島の真ん中、全国どこへでも行けると、肉牛を東京芝浦の市場へ出荷していた。BSE騒動で価格が大暴落し、実際にこの時捨て犬のように捨て牛さえもあった。東京で、どこへどんな売られ方がされているかわからないと思って、愛知万博の少し前、顔が見える範囲の東海地方へと出荷先を変えた。この時、直売の免許を取って牛肉を売りに行ったこともある。

ぼちぼちではあるが、県内でこの肉『段戸牛』を使いたいというシェフもでてきてくれた。段戸牛の特設コーナーを設けてくれているスーパーマーケットもある。人に恵まれたお陰で『農園レストラン』が開店できた。このことでまた、たくさんの人との出会いができた。不思議と同じような人が集まってきて、初対面同士が仲良くなるということも起きている。

連携している団体・専門家・自治体など:

東海農政局、6次産業化プランナー、愛知県農業改良普及課、JAあいち東、名倉地区営農推進協議会、特定非営利活動法人山里文化研究所

山村再生や、その担い手作りに関わる具体的な活動:

○地域の人や自然が好きという若い賛同者で取り組んでいるログハウスづくり ○ナナカマド街道計画 など
詳細は活動欄に記述。

※以前から矢作川流域の根羽村、豊田市・稲武・足助と堆肥や牛肉の連携がある。地域的にも隣接している。森の健康診断、ばんじゃーる自然塾実施における協力もある。交流がより広く密になるとよいと思う(取材者)

現在直面している課題:

肉牛肥育の経営を成り立たせるためにどうするかということ。海外への働きかけやハム業界のバイヤーも来ている。業者の中にはハラルの認証をとったところもある。量を増やして価格競争しても外国製品には負ける。基本は地元。手をかけても出来るだけきっちりした良いものを作っていけないかやっつけいけないかと思う。

今後やってみたいこと:

国道153号線を段戸山方面に入ると高原の牧場風景が広がる。溪流は奥入瀬溪谷のようだし、なぐらのアグリステーション周辺は信州の安曇野に似ている。遠くまで行かなくても良いところがいっぱいあることを多くの人に知ってもらいたい。エコツーリズム、川遊びやバーベキュー、体験学習、ファーマーズマーケットなどをしたい。

6次産業の認証をとっているのので、ビーフジャーキーやローストビーフの加工品づくり。若者たちがここで生活できるマーケティングもしたい。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か:

来る3月22日に豊橋鉄道主催でメープルツアーが予定されているが、いろいろな情報の発信や都市と農山村の交流を企画できる人がほしい。自然が好きで働く場を探している若い人を呼び込みたい。人がわざわざここまで足を運んで食べに来たいという料理や雰囲気を提供できるように取り組みたい。

チームオリジナルの質問:

<質問内容>①汚水が大雨の時に流出といった畜産の糞尿処理が問題になっているがここではどうしているのか? ②飼料はどのようにしているのか?

<答え>

①牛糞発酵プラント(ロータリ攪拌・エアレーション)1基、堆積発酵舎2棟、堆肥舎2棟の施設を駆使し、100%良質発酵堆肥を生産している。平成元年から豊田の堆肥屋さんと連携していて8割ぐらいいはそちらへいっている。あと2割ほどは、この近辺の名倉、稲武、足助、根羽へ4t車で配達(有価)をしている。堆肥も農家さんが望むような良いものを作るという気持ちがないといけないと思う。

②愛知経済連の設楽の里でブランドの配合飼料を作ってもらっている。そこに県内産飼料米を2、3%混ぜている。飼料の自給はいずれと思うが、耕作地や耕作の機械の問題などあってまだまだというところ。

チームオリジナルの質問:

<質問内容>③TPPの問題をどう捉えるのか?具体的にたけうち牧場の経営として怖いのか、怖くないのか?

<答え>③正直いって怖い。神戸牛や松坂牛など一部のブランド産地はいざ知らず、普通の農家は、これから先、飼料穀物の値上げも為替の変動もあるだろうし、世界的な穀物自給バランスの崩れもあるだろうから恐れている。中山間地にこれ以上の効率化をもとめることができない。TPPIによって日本の中山間地域が壊されるという恐れがある。TPPIは農産物の問題が大きく挙げられているが、報道されていない健康保険にも影響が及ぶのではないかと不安に思う。

その他、伝えたいこと:

ログハウスでは自然塾をやっている。最近すこし休んでいるが、これまで年2回ぐらいのペースで催し物をしてきた。ブータンへ行って来た方の話や千年持続学校の話をして頂いた。交通費ぐらいの謝礼しか出せないが、それでいいという講師を紹介してほしい。特にレストランが冬季休業する12月から3月までは全館内が空いているので、活用したいと思う。

写真



沖・駒プロジェクトログハウス



農園レストラン&BBQ「ばんじゃーる駒ヶ原」



ナナカマドの植栽

■ 私たちがたけうちです。



私が育てた自慢の肉牛
誇りをもって、
お勧めいたします。

たけうち牧場ホームページより

